

秋季における刺網でのホンモロコ漁獲物調査

根本守仁・米田一紀・大植伸之

1. 目的

ホンモロコの資源管理を推進していくための基礎資料とするため、秋季に盛んに行われている刺網漁について、漁獲物の体長や年齢等の調査を行った。

2. 方法

調査には、平成30年10月17日～11月21日に、漁業者5名によって琵琶湖北湖で刺網により漁獲されたホンモロコを用いた。基本的には、各漁業者ともに期間中に2回、標本を購入した。標本は、冷凍保存とし、解凍後に体長等を計測した。年齢査定は、鱗の輪紋の乱れを観察することにより行った。

3. 結果

漁業者別の漁獲物の平均体長を図1に示した。漁業者別の漁獲物の平均体長は、 78.26 ± 7.24 (平均±標準偏差)～ 98.52 ± 5.38 mmであった。漁業者ごとに用いた刺網の目合いは異なるため、これに伴って漁獲物の平均体長に違いがみられた。

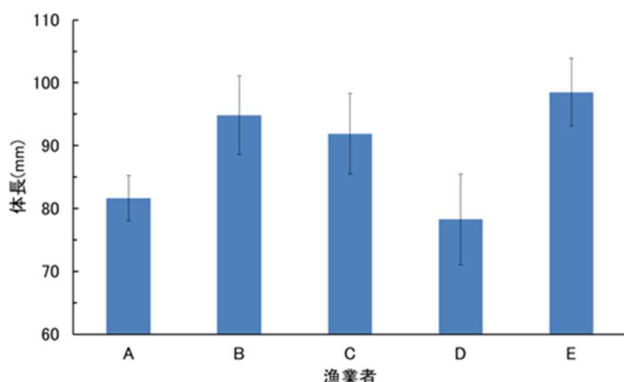


図1 秋季に刺網で漁獲されたホンモロコの漁業者別の平均体長

次に、漁業者別の漁獲物の年齢構成を図2に示した。漁業者AおよびDでは、0歳魚の

割合が99.6および97.6%と、漁獲物のほとんどが0歳魚で占めていた。一方、漁業者B、C、およびEで0歳魚の占める割合は、31.9、43.4、および8.71%であり、1歳魚以上を中心に漁獲していた。

以上のことから、秋季における刺網では漁業者によって、漁獲物の体長が異なるだけでなく、年齢構成も大きく異なることが明らかとなった。

資源管理の取り組みを今後検討していくうえで、秋季の刺網は漁業者間で獲りたい漁獲物のサイズが大きく異なることから、目合いを制限することには注意が必要であると考えられる。

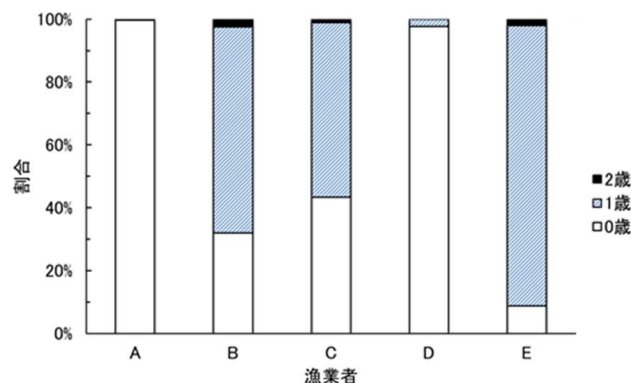


図2 秋季に刺網で漁獲されたホンモロコの漁業者別の年齢構成